

せつぶん 「節分」

平成22年 1月 第5週放送

せつぶん
もうすぐ節分ですね。

せつぶん もともと
節分は、元々字の通り季節の分かれ目である立春・立夏・立秋・立冬のそれぞれの前日で、一年に四回有り、
それがいつの間にか立春前日だけを指して節を分ける「節分」と言うようになりました。

いんれき ついな ついな やくばら やくお
昔は陰暦でしたので、その節分は年の終わりに行う、追儺の式でした。「追儺」とは厄払いや厄落とし、つ
まり「鬼」を払うということです。また、追儺の式は中国周の時代の宮廷で始まり、日本でも706年に
きゅうちゅう きゅうちゅうぎょうじ こうせい じんじゃぶっかく せつぶん
宮中で初めて行われて宮中行事となり、やがて民間に伝わり、後世には神社仏閣でも節分の日
ついな しき まめ おこな
の夜に追儺の式が豆まきとともに行われるようになりました。

せつぶん ついな しゃかさま しゅうかん
節分にしても追儺の式に行う、豆まきにしても、お釈迦様の教えからは来ていない、民間の習慣ではあり
やくお じんじゃぶっかく もお せつぶんもうで つな せつぶんもうで じいん
ますが、節分の厄落としが、神社仏閣に詣でる節分詣と繋がり、この節分詣から寺院でも豆まきを行
うようになったそうです。

そうとうしゅう ほんざん よこはま だいほんざんそうじじ まいとせつぶん ついなしき
曹洞宗の二つの本山の一つ、横浜にあります大本山總持寺でも毎年節分に追儺式で豆まきを行っ
ています。

そうじじ ふく うち ふく うち おに そと やく
總持寺での豆をまく時のかけ声は「福は内、福は内」だけで、「鬼は外」とは言いません。「それでは厄を
追い払うことにならないのでは」と思われるかも知れません。

．．．． ほか まわ
でも自分の所へ来たわざわいを、「鬼は外」と追い払って外の誰かに回して自分だけ助かろうという考えは
ぶっきょうてき
仏教的ではありません。

さまざま な へいおん ねが そうじじ
様々なわざわいが無くなり平穏な世の中になるように、誰にでも福が来るようにと願うことが、總持寺の
ついなしき いの
追儺式で行う、豆まきの祈りではないかと思うのです。

そうとうしゅう じんけん へいわ かんきょう かか
曹洞宗では『人権・平和・環境』をスローガンに掲げております。

おに そと ほか まわ かいけつ さまざま
どれも「鬼は外」と言って問題を外に回して逃げていたのでは解決できないことです。様々なわざわい
や問題に対して、解決していこうという姿勢と行動が大切だとは思いませんか？

ことし こかそく おにやく かた かんしゃ
今年は御家族のどなたが鬼役でしょうか？鬼役の方に感謝の気持ちを持って豆まきをしていますか？

そうじじ

その方は本当の鬼ではないのですから、思い切り豆をぶついたりしないでくださいね。できれば、^{そうじじ}總持寺と同

おにな

じように鬼無しの豆まきにしませんか？